

# 平成28年度 第3回五泉市総合計画審議会 議事要約

日 時：平成29年1月12日（木）14：00～16：00

場 所：五泉市役所 4階 401会議室

出席者：委員22名、飯平アドバイザー

欠席者：阿部律雄委員、山田宏之委員、川瀬和博委員、目黒章次委員、  
山田宜永委員（5名）

## 1. 開会（事務局）

第3回五泉市総合計画審議会を開会する。

委員27名中、22名の出席を得ており、審議会が成立する。

## 2. あいさつ

樋口会長より開会のあいさつをいただいた。

## 3. 本日の説明

- ・本日の審議テーマ、進め方について説明を行った。
- ・第2回審議会の要約、補足資料について説明を行った。

## 4. 議事

議事（1）審議（前期基本計画について）

※テーマ④～⑧について審議

審議方式は次のとおり

- ・テーマに含まれる施策の概要を事務局より説明。
- ・テーマに含まれる施策の原案を委員より再度確認。
- ・委員よりテーマに関する意見等をいただく。

[意見・質疑応答]

■テーマ④：安心して子育てができるまちづくり【施策 No. 10～13】

●尾坂勝委員

ファミリーサポートセンターはどこにあるのか。

●事務局

「ファミリーサポート」というサービスであり、センターが設置されているということではない。例えば、子どもを迎えに行ってもらいたい人、迎えに行ってくれる人を取り持つなど、こども課で取り扱っているサービスである。

●松尾幸一委員

48 ページにある成果指標「合計特殊出生率」について、47 ページに※印があるが、巻末の用語集に載っていない。

●事務局

127 ページの一番上に「合計特殊出生率」ということで掲載している。

●松尾タカ子委員

ひとり親とは、一般的には女性が対象とみられがちであるが、男性が子どもを引き取っている場合も対象となるのか。また、市も手厚く支援していると思うが、ひとり親にもいろいろなパターンがあり、大変な思いをしている家庭が見受けられるので、サポートしてもらえたらと思う。

●事務局

ひとり親の定義については、一般的には女性の方が多いと思うが、男性でも女性でもひとり親ということであれば当てはまる。支援の対象については、所得制限などがあるため、一般的に男性が仕事を持っていれば支援の対象に当てはまらないという人が多いかもしれないが、男性も該当すれば制度の対象になる。

●松尾幸一委員

妊婦が安心して出産できるためには、五泉市内に産婦人科がないことが一番の不安要素だと思うが、今後、南部郷総合病院が移転する際、産婦人科の設置についての見通しはどうなっているのか。

●事務局

今のところ新病院での産婦人科の設置という話は聞いていない。また、診療所の開設についても、いろいろなところでお願いはしているが、これという施策があるという話は聞いていない。その分、妊婦が健康管理をしながら安心して出産できるように、健診でのタクシー助成などの施策に取り組んでいきたいと考えている。

●松尾幸一委員

産婦人科の設置に関して、前向きに努力をしているということによいか。

●事務局

はい。

●金子義伸委員

現在、全国的にみても産婦人科の医師不足は歴然としている。実際、年々産婦人科医が減

っており、五泉市の規模で産婦人科の医師を招へいすることは、ほとんど望みは薄いと思う。産婦人科を設けたとしても、その医師の負担や訴訟問題などのリスクがあるので、1人で開業する医師はいない。少なくとも3人の医師で1つの産婦人科を開設しない限りは無理だと思うが、その3人の医師を確保することは難しい。新潟大学そのものも産婦人科医がいないということで、この地域に人的な補充ができる余裕はないということである。今、困った状況にあるが、そのことを将来的にも見据えたうえで、市でどのように対処するのかを考えるしかないのではと思う。

●阿部周夫委員

47 ページに、合計特殊出生率と出生数のグラフがあるが、その因果関係がわからないので、なぜ同じ表に記載するのか意味が分からない。合計特殊出生率が平成33年で1.54になるのであれば、どれくらい出生数があるのかということとを予測して書いた方がいいと思うが、出生数と合計特殊出生率を同じグラフに書くことが、違和感があり、連動的なものが感じられない。合計特殊出生率は上がっているが、出生数が減っているということは、出産する女性の数自体が減っていることだと思うが、何かそのような説明をつけないとこの図だけだとわからない。総合計画として残る資料となるので、このような書き方でよいのか。

●事務局

出生数は人口減の中で減っていくと思うが、今後5年間で施策を展開する中で、女性が一生の間に産む子どもの数を少しでも上げようということで表を作成した。ただ、分かりにくいと思うので、今後編集にあたっては、注釈等について検討したいと思う。

●飯平アドバイザー

子育てや保育、教育に関して、計画全体に占める割合が高いので、その点に力を入れた計画になるのではという感想を持った。

■テーマ⑤：健康で安心して暮らせるまちづくり【施策 No. 14～19】

●阿部良夫委員

59 ページの施策No.16「食育の推進」に関して、年に1回、地元の小学生と一緒に学校給食を食べているが、献立を見ると学校の栄養士は非常に考えて、子どもたちにおいしいものを食べさせている。市では自校式給食を取り入れているが、最近ではアレルギーを持った子どもが多く、栄養教諭が相当気にしていたということがあったが、自分としては今食べているものが、将来大人になったときに生きてくるような気がするので、自校式給食には力を入れて進めていってもらいたいと思う。

最近、新聞で給食費無償化という記事が出ていた。行政の負担がかかるので給食を無償化することは難しいかもしれないが、実際、各家庭では給食費を100%納めているのか、わかるのであれば調べてもらいたい。

●事務局

自校式給食については、合併以来、力を入れて取り組んでいるので、今後も続けていきたいと思っている。また、給食費の納入状況については、実際に家庭に事情などで納めるのが遅れている人がいるという話は聞いているが、その場合はお願いしながら納めていただ

いる状況であると思う。今手元に資料がないため、後でわかったらお知らせしたい。

●阿部良夫委員

保護者の中には、義務教育だから学校給食も無料になると思っている人が結構いると聞いたことがある。

●金子義伸委員

61 ページの施策No.17「高齢者福祉・介護保険の充実」について、今後の取り組み 17-③・④に、「訪問介護、短期入所生活介護、通所介護、小規模多機能型居宅介護の施設」や、「特別養護老人ホームの整備」とあるが、市では足りているのか、不足しているのか。不足分の施設をつくる場合は、介護保険料との兼ね合いで非常に難しい面もあると聞いたことがある。施設を作った場合の介護保険料の負担について試算はあるのか。

●事務局

介護保険料を算定するにあたっては、介護保険事業計画を策定している。3年に1回見直しをするが、その際にはニーズ調査を行い、それを踏まえたうえで、かかる費用や保険料について試算を行っている。五泉市の場合、すぐ入所できるということではなく、順番待ちという状況もある。そういう意味では、施設が不足している面もあるかと思うが、新たな施設を建てた場合には介護保険料を負担いただくことになるので、必要とするサービスと介護保険財政のバランスを取りながら、施設整備を計画的に進めているところである。

●金子義伸委員

63 ページの施策No.18「医療及び保険福祉体制の充実」について、第1次総合計画から取組の内容があまり変わっていないようである。

18-①「地域医療体制の明確化と充実」で、「診療所と病院の役割分担を明確にし、地域医療の充実を目指します。医療と介護を一体的に提供する『地域包括ケアシステム』構築のため、在宅医療を推進します。」とあるが、現在、地域医療計画の中で地元医師会と医療機関が連携して在宅医療を推進している。ここでは、医師と行政が連携して推進するという文言を入れるべきではないかと考える。

また、18-②「救急医療の確保と充実」について、「救急医療指定病院に関する支援を行います」が非常に漠然とした表現であるが、この地域には公的病院がないので、地元の救急医療指定病院である南部郷総合病院に、財政的支援を含めて考えるべきではないか。財政的なものも含めて支援を行うことを考えていかないと、この地域の基幹病院が成り立たなくなっていくことが容易に想像できるので、危機感を持った文言を入れることで、積極的に支援を行うような市の姿勢を見せてもらいたい。

18-③「市外医療機関との連携」について、「二次医療・三次医療については同じ新潟医療圏域である新潟市等との連携をもとに、高度な医療体制の確保に努めます」とあるが、「二次医療」には三次医療に近いものと、非常に軽症の二次医療がある。なので、二次医療でも地元で完結できる二次医療を目指すということを含めていかないと、地域の基幹病院がなくなると、盲腸など簡単な病気でもすべて新潟市の圏域に送らなければならない状態になる。もう少し危機感を持って、地元で完結できる二次医療を確保するためにはどうするかということを考えていかないと、成り立たなくなっていくのではないかと。具体的に踏み込んだ文言にして、それを目標にすべきではないかと思う。

提案であるが、18-⑥として、医療従事者、例えば医師や看護師の確保をいかに行うかを入れていくべきではないか。他市では医療従事者確保のために積極的な財政的なものも含めた支援を行っているが、五泉市ではどうか。地元の医療機関等に任せおくだけでは難しい。行政・議会・医療関係がタッグを組んで、国や県にもっと積極的に働きかけをしてもらいたい。阿賀町では行政として在宅医療をどのように完結するかということで、我々医師会と連携して地方創生会議に特区申請をした。テレビ電話やITを利用した医療や診療であるが、認められそうである。市が一体となってやっている。五泉市も地域医療に危機感を持って、計画を立ててもらいたい。

看護師の確保に関しても、新潟県域に看護学校がないのはこの五泉・東蒲原地域だけである。1, 2年でできることではないが、5年の計画であるから、一つの計画として入れるべきではないか。この地域から看護学校に行っている人が結構いるので、地元にもそのような機関があれば、若い人が地元に残ってくれるという可能性やメリットもある。

また、この地域で新潟市の医療機関にかかっている人は50%くらいおり、徴収された保険料は、結局は7割くらい新潟市に行っている。ということは、地域で完結できれば、病院の収益も上がるため、税収として戻ってくる。そういうことを含めると、医療機関に財政的な支援を行うことで地元の医療を充実させれば、保険料がまた地元に戻元されることになる。

いろいろな面を考えながら本当に危機感を持って、行政が先頭に立って働き掛けないと成り立たない。もう少し、一步踏み込んだような施策展開の文章に変えてもらえたらと考えている。

#### ●事務局

18-①「地域医療体制の明確化と充実」について、地元の医師会等と連携を図っていかなければ在宅医療は推進できないと考えているので、記述をもう少し考えたいと思う。

18-②「救急医療体制の確保と充実」では危機感を持つこと、また財政的な支援という意見であるが、当市としても、南部郷総合病院、北日本脳神経外科病院、下越病院に救急医療に対する補助金を支出している。また、救急指定病院に関して医療器具の整備についても、県の補助金に申請している。その辺のところを、気を付けながら記述をしたいと考えている。

18-③「市外医療機関との連携」について、地元で完結できる二次医療体制ということで、地元における総合病院として大変必要な施設であると考えているので、よく記述を考えたいと思う。

最後に、18-⑥ということで、医療従事者の確保という意見についても、現状についてはその通りであると思う。市としても、看護師への奨学金制度があるが、そのほかについては具体的なものがないので、5年間の計画の中にどのような形で記載できるか、検討したいと考えている。

#### ●金子義伸委員

南部郷総合病院の梨本医院長に話を伺ったときに、単なる病院ではなく、研究施設なり研修できる施設など、センター的なものも含めた施設を病院の中に作ると、大学としても非常に派遣しやすいという話があった。市が私的な病院に対して財政的な支援がなかなか難しいという面もあると思うが、病院経営のためにお金を出すということではなく、地元の医師を確保する、人材確保のために地元の医療機関に財政支援をするという考え方に切り替えない

といけないのではないかと思う。

●事務局

平成 19 年に南部郷総合病院に整形外科がなくなってから、それが地域医療の一つの課題であると考えているので、病院経営という観点ではなく、医師・看護師の人材確保、地域医療の確保というような観点で、総合計画にもできる限り反映できるように検討し、また、意見については担当課に伝えていきたいと考えている。

●飯平アドバイザー

貴重な意見を出していただいたと思っている。医療の充実、医師・看護師の確保については県としても重要な課題だと思っている。金子委員のご意見にあった「タグを組む」一員だと思っているので、関係部署に伝えたいと思う。

■テーマ⑥：安全な生活環境を守るまちづくり [施策 No. 20～23]

●阿部良夫委員

地球温暖化について、最近雪の降る量が非常に少なくなってきており、このまま恒久的に山に雪が降らないと、河川や地下水に影響が出てくるのではないかと非常に気にしている。昨年は阿賀野川の水位がずいぶん減ったし、早出川もすぐ渇水するので、山に雪が降らないと将来的に我々の飲料水である地下水に影響が出るのか出ないのか、非常に気になっている。

●尾坂勝委員

街灯であるが、車道の方に向けて照らしており、歩道側が暗いところが何か所かみられる。防犯上、歩道を照らすのが普通ではないかと思うので、巡回してもらい、街灯を歩道側に向けてもらいたい。学校の通学路など、子どもたちの安全のためにもお願いしたい。

また、ふれあいバスについて、普通は道の両側にバス停があるが、バス停がなく反対側はどこで乗ればいいのかわからない場所があるので、バス停の設置をお願いしたい。先日、五泉駅に行くためにふれあいバスに五泉高校前から乗ろうと思ったが、反対側はバス停があるが高校側にはないので分からなかった。高校生が校門の中でバスを待っていたが、バスの臨時駐車場から 10m あるかないかというところから、高校に停まって駅に向かうということであったため、できれば高校前でなく、臨時駐車場から乗せることができるように検討してもらいたいし、バス停も道の両側に設置するようにお願いしたい。

●事務局

街灯については、設置主体が集落や市、県などであり管理がさまざまであるが、市で改善できるものについては、現状を把握した中で検討していきたいと思う。

また、ふれあいバスのバス停が片側にしかないということについて、問い合わせや意見はいただいているが、道路際にバス停を設置するにあたっては道路占用の許可や、商店街ではお店の好意によって設置しているところもある。いろいろな経緯があって、反対側に設置できていない箇所があるが、できるところから設置していけるように検討していきたいと思う。

また、五泉高校からの始発のバスについては、現在冬期間のため道路除雪の関係でバス停の位置を臨時的にずらしている。実態に合わせたような形で改善できることがあれば、検討していきたいと思う。

## ■テーマ⑦：非常時に十分な対応ができるまちづくり【施策 No. 24～25】

### ●佐藤渉委員

テーマ⑦とは別の質問であるが、第1次総合計画では「市民との役割分担」という項目があったが、今回はなぜ削ったのか。また、第1次総合計画では文章だけであるが、今回は写真やグラフを多用しているので、これが今回の一番の目玉なのか聞きたい。

### ●事務局

第2次総合計画を策定する際に、各課で策定シートというものを作成し、それをもとに今原案を作成した。この策定シートを作成する段階では、第1次計画と同様に「市民との役割分担」については記載をしていた。今回冊子としてまとめる際に、グラフや図表を入れることで、市民からも読んでいただけるような総合計画にしていくという方針で進めてきた。その関係で、今までよりも文字数を少なめにすることで読みやすくしたり、策定シートでは記載しているものでも冊子には載せなかった項目がいくつかあるが、皆さんに見ていただきたいところを冊子としてまとめている。

### ●松尾幸一委員

防災行政無線について、家の中にいると何か鳴っているのはわかるが、何を言っているのかが全く分からない。今の状態であるとメリハリがなく、何を言っているのかわからないし、ましてやこれから高齢者が増えていったときに耳の不自由な人もいる。市として、本当に非常事態の時に、何か警報的なものが必要な気がする。

### ●事務局

防災行政無線については、市民からも聞こえにくいとの声が担当課の方に届いている。その際には現場を確認し、可能なものはスピーカーの向きを変えるなどの対応をとっている。どうしても聞こえない場合は、防災行政無線だけではなくて、安心メールや電話など、複数の手段をとって災害情報を知ってもらえるよう取り組みを進めている。

また、いざというときには、現在防災の取り組みとして、自主防災組織にも力を入れている。隣近所で声掛けをするということも必要になってくると思うので、市としてもこのような取り組みを支援していきたいと考えている。

### ●松尾幸一委員

非常事態に、どのようなものを鳴らすのか。サイレン的な、具体的な音で知らせるとかはないのか。

### ●事務局

現在はお知らせ的なアナウンスを平常時しているが、本当の緊急事態には音を変えたりすることで、お伝えできるようになっていると思う。緊急事態には別な形での放送がされるものと思う。

### ●剣持雄吾委員

昨年12月に糸魚川で大きな大火があったが、当然あれだけの強風が吹けば飛び火するし、どれだけ装備があっても足りないくらいだったと思う。今回、第2次総合計画を策定する中で、やはり消防力の強化という項目が必要であると思う。装備等の充実並びに人員等もそうであると思うが、消防本部や消防署の消防車だけではなかなか対応できないこともあるし、消防団をフルに活用しても消防力は不足すると言われてしているので、今後の課題として消防力

の強化を入れた方がよいと思う。

## ■テーマ⑧：青少年を地域ぐるみでぐくむまちづくり【施策 No. 26】

### 地域で支える福祉のまちづくり【施策No.27】

### 多様な文化にふれあえるまちづくり【施策No.28】

#### ●尾坂勝委員

青少年育成市民会議という組織を作り、各関係団体とのネットワーク会議や、子どもの問題に対する協議など、活動を行っている。今、子どもたちのために何かできるかということで勉強し、一生懸命頑張っているところである。問題点はこれから生涯学習課と探りながら、活動を進めていきたいと考えている。

#### ●山崎洋子委員

孫が寺子屋を利用していた。その点では満足しているが、南小学校から寺子屋に行く間の駅の中央連絡橋がずいぶんと長い。防犯上、カメラなどはあるのか。一度、子どもの様子を見たが、声はするが姿が全く見えない。だいぶ距離があると思うが、もし何かあった場合の対応はどうしていたのか。

#### ●事務局

おそらく、中央連絡橋のあたりに防犯カメラは設置されていないと思う。ただ、今まで大きな事故があったという話は聞いていない。前回の会議で、駅周辺整備について意見をいただき、市として JR と協議しながら取り組んでいくという話をさせていただいたが、具体的な協議はこれから進めていくことになる。子どもたちの安全管理に対して配慮できることについて、検討の一つとしたいと思う。

#### ●豊島恭子委員

83 ページの施策No.28「国際化に向けた環境づくり」について、私が活動している中で外国育ちの人がいて、私たちと一緒に活動しているときはよいが、ほかの人だとうまくいかないような壁がある。ここで「交流事業を支援する」とあるが、私たち市民の壁をなくしていくということも大事だと思う。

#### ●渡部委員

12月に民生委員の一斉改選が行われた。定年になった人が五泉市で25、6人おり、新たに新任の方が入った。五泉市は100%補充できたということであるが、民生委員のなり手がいない状況である。事務局としては誰でもいいというわけではないと思うが、選ばれた中で、市民から「なぜあの人がなったのか」という声も若干聞かれた。事務局では、どのような選任をしているのか。

#### ●事務局

民生委員をお願いするにあたっては、退任する人から推薦をいただく場合と、地域の町内会長から推薦をいただくという場合が多いと思う。それで了解をいただき、選任していると思う。

#### ●鈴木千鶴子委員

79 ページの施策No.26「青少年を地域ぐるみで育む環境づくり」の26-①「家庭の教育力向

上の支援」について、学校の会議では「アウトメディア」などがよく言われている。家庭教育学級で取り組んでいるということを知ることが、インターネットなどで子どもたちが危ない目にあっているという話をよく聞くので、何かの機会がある度に話し合ったり、家庭でも話題になるようにしていくとよいと思う。

●武藤ノリ子委員

孫が夫婦で勤めているが、4 か月から保育所にお願いし、延長保育も利用した。今は小学校に行っているが、本当にありがたい制度だと思っている。

●飯平アドバイザー

民生児童委員については、全県的になり手がいないということで、事務局も苦労されているという感想を持った。また、五泉市は学校教育だけではなく、社会教育、生涯学習に熱心に取り組んできた経緯があると認識している。早くから放課後に子どもの面倒をみるような取り組みもしている。今後も、子どもを地域ぐるみではぐくむという活動を伸ばしていつてもらいたいと思う。

## 9. その他

○給食費滞納についての回答

給食費の滞納について教育委員会に確認したところ、五泉市の場合は市の会計を通さずに学校ごとに徴収しているため、給食費の滞納状況は把握していない。仮に、滞納があった場合、学校で個別に対応している。

○次回以降のスケジュールについて

- ・第4回審議会について平成29年1月16日（月）午後2時から開催することを確認。

## 10. 閉会

以上